

※当資料は、米国時間 2020 年 2 月 24 日に米国で発表されたプレスリリースの抄訳です。

マカフィー、セキュアアクセス サービス エッジ (SASE) を実現する 統合クラウドセキュリティプラットフォームを発表

*McAfee MVISION Unified Cloud Edge は SASE の導入を容易にし、
デバイス、Web、クラウド全体のセキュリティの総所有コストを削減*

デバイスからクラウドまでを保護するサイバーセキュリティ企業である米国マカフィー (McAfee LLC、本社：米国カリフォルニア州) は、デバイスからクラウドまで、画一したデータと脅威防御を提供する **Unified Cloud Edge (UCE)** を実装したクラウドネイティブな **MVISION** プラットフォームを発表しました。これにより、マカフィーは、セキュリティを強化し、サイバーセキュリティのコストと複雑さを削減することを目的としたセキュアアクセス サービス エッジ (SASE) の導入を容易にするための革新的な統合セキュリティソリューションを提供します。

企業は、データや資産に対する保護を強化するなど、変革的なクラウドサービスの迅速な導入によりビジネスの最適化を加速しています。マカフィーの「[Navigating a Cloudy Sky: Practical Guidance and the State of Cloud Security \(クラウド環境の保護: クラウドセキュリティの現状と実践ガイド\)](#)」レポートによると、今日、95%を超える企業がクラウドサービスを使用し、83%が機密データをクラウドに保存しています。しかし、デバイス、ネットワーク、クラウド全体で、画一のセキュリティポリシーの下にデータを保護することができていると回答した企業はわずか 30%です。クラウド上でデータ損失防止 (DLP) を実装していると回答した企業はわずか 36%に過ぎません。

Gartner の「[The Future of Network Security Is in the Cloud](#)」レポートでは、SASE を導入するという明確な戦略を持つ企業は、2018 年の 1%未満から、2024 年までには少なくとも 40%になるだろう、と予測しています。また、SASE の導入は、セキュリティの強化、複雑性とコストの削減、使いやすさと透過性、新しいビジネスシナリオの実行、パフォーマンスとレイテンシーの改善、ゼロトラストネットワークアクセスの有効化、ネットワークおよびネットワークセキュリティ担当者の有効性の向上、ローカルへの徹底と低い運用負荷、単一ポリシーでの管理といった大きな利点がある、と指摘しています。Gartner は同時に、複数のベンダーやクラウド製品から独自の SASE を構築しようとする企業は、つなぎ合わせることで、管理と施行には一貫性がなくなり、パフォーマンスは低下し、さらに導入費用が高額になるだろう、と警告しています。

McAfee UCE は、SASE の実現を容易にするために、クラウドファーストの考え方で設計されています。クラウドサービスを導入するための安全な環境を整備し、従業員の生産性向上のためにあらゆるデバイスからのクラウドへのセキュアなアクセスを可能にします。UCE は、デバイス、Web、クラウド全体で画一のポリシーを適用することにより、データがデバイスを離れ、クラウドを往来し、クラウドサービス内にあるときは保護し、新しいセキュアなクラウドを整備します。マカフィーはまた、ブラウザー分離の先駆者で受賞歴のある **Light Point Security** を買収するための正式な契約を締結したことも発表しました。

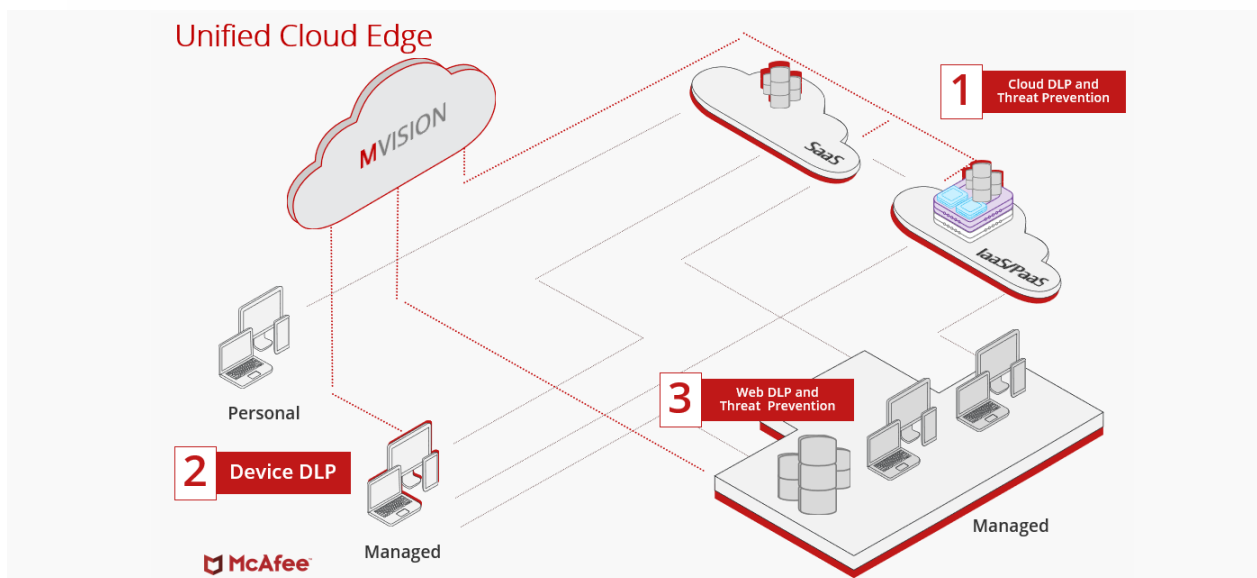
マカフィーのエグゼクティブ バイス プレジデント兼最高製品責任者であるアッシュ・クルカーニ (Ash Kulkarni) は、次のように述べています。「クラウドへのデータの分散は、今日、利用可能な無数のデバイスと相まって、重要な資産に対する保護方法を変えてしまいました。クラウドの可能性を最大限に引き出すためには、IT は、自社で所有していないクラウドサービスや自社が運用していないネットワーク上のデータをもセキュアにする必要があります。UCE を利用することで、企業はあらゆるデバイスからクラウドサービスまで、業務が行われるところに対してデータ中心の強力な防御が可能になります。」

UCE は、単一のクラウドネイティブなプラットフォーム上の CASB、Secure Web Gateway (SWG)、および DLP の機能と連携します。主な機能は次のとおりです。

- ・ **デバイスからクラウドまでのデータに対する包括的な可視性と一貫したコントロール**：企業は従来、デバイスに DLP を実装することに注力してきました。データがクラウドに移動すると、従来のポリシーをクラウドにも適応させるという困難なタスクに直面します。UCE は、DLP ポリシーを同期することでこの運用負荷を削減し、デバイス、Web、クラウド全体に包括的な可視性とコントロールを提供します。

- ・ **統合管理及び調査による一貫した脅威防御**：クラウドサービスへのすべてのアクセスをコントロールし、クラウドベースの脅威や Web 攻撃から保護します。単一のコンソールがマカフィーの CASB とクラウドネイティブな SWG へのアクセスを許可し、それらを組み合わせることで前例のないクラウドアプリケーションに対するコントロール、テナント制限、ゼロデイマルウェアからの保護を可能にします。

- ・ **エンタープライズスケールとレジリエンスを備えたクラウドネイティブで、ダイレクトトゥクラウド (「インターネットブレイクアウト」とも呼ばれる) アーキテクチャを搭載した業界最高の Cloud SLA**：クラウド規模でダイレクトトゥクラウドアーキテクチャを実現することで、ハードウェアアプライアンス、容量制限、MPLS ルーティングに関連するコストと複雑さを排除します。マカフィーは、業界最高の CASB およびクラウドネイティブの SWG を **99.999%の可用性**で提供します。



セキュア アクセス サービス エッジ (SASE) を実現する
統合クラウドセキュリティプラットフォーム

Land O'Lakes の最高情報セキュリティ責任者であるトニー・テイラー (Tony Taylor) 氏は、次のように述べています。「マカフィーのデータと脅威防御に対する統合アプローチは、デバイス、

Web、クラウド全体に対して、当社のセキュリティチームが従来必要としていたセキュリティポリシーの管理の重複を排除しました。」

この文書には、開発中の製品、サービス、プロセスに関する情報が含まれています。ここで提供されるすべての情報は、マカフィーの独自の判断で、予告なく変更される場合があります。最新の予測、スケジュール、仕様、およびロードマップの入手はマカフィーの担当者にご連絡ください。

参考情報：

[MVISION Unified Cloud Edge](#)

マカフィーについて

マカフィーはデバイスからクラウドまでを保護するサイバーセキュリティ企業です。業界、製品、組織、そして個人の垣根を越えて共に力を合わせることで実現するより安全な世界を目指し、マカフィーは企業、そして個人向けのセキュリティソリューションを提供しています。詳細は <https://www.mcafee.com/ja-jp/> をご覧ください。

*McAfee、マカフィー、McAfee のロゴは、米国およびその他の国における McAfee, LLC の商標又は登録商標です。

*その他の会社名、製品名やブランドは、該当各社の商標又は登録商標です。

<本情報のお問い合わせ>

マカフィー株式会社（<https://www.mcafee.com/ja-jp/>）

広報担当 戸田

東京都渋谷区道玄坂 1-12-1 渋谷マークシティウエスト 20 階

Tel: 070-2680-0731 Fax: 03-5428-1480

hiromi_toda@mcafee.com